

オフィストイレの利用満足度要因におけるジェンダー比較
オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究 その2

正会員 ○日野 晶子* 岩本 健良***
同 高橋 未樹子** 小池 由紀*
大出 摩紀**

オフィス トイレ トランスジェンダー
LGBT 意識調査 満足度評価

1. 本報の目的

本研究は、性自認^{注1)}に関わらず利用しやすいオフィストイレの環境整備をめざしている。そこで本報では、現在主に利用しているオフィストイレに対する総合満足度と個別要因満足度を調査し、ジェンダーごとに総合満足度への影響要因を明らかにすることで、改善施策立案の足掛かりを得ることを目的とする。

2. 調査方法および回答状況

2-1 調査概要

シスジェンダー^{注1)} (以下シス) については、前報のモニター調査回答者のうち表 1 の条件により抽出した 824 人、トランスジェンダー^{注1)} (以下トランス) については、前報の回答者に加え、SNS や複数の LGBT 関連団体を通して集めたオープン調査による回答者から、表 1 の条件により抽出した 299 人に対してインターネット調査を行った。

表 1. 調査概要

調査対象	シスジェンダー	トランスジェンダー	
調査種別	モニター調査	同左	オープン調査
調査時期	2017年11月	同左	2017年10-11月
有効回答数	824人	299人(モニター167人/オープン132人)	
回答者年齢	男女各412人	FTM:86人/FTX:73人/MTX:54人/MTF:86人 ^{注2)}	
分析対象条件	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスビルに週1回以上勤務 ・勤務フロア就業人数50人以上(他社等も含む)※シスのみ ・勤務フロアトイレ設置状況が「わからない」と回答した者以外 ・職種にて接客・販売※1、工場ライン※2、オペレーター等※2、その他を選択した者以外 		

※1. オフィスビル勤務率が低いと想定される職種

※2. トイレ利用の時間的な制約があると想定される職種

2-2 調査・分析方法

現在主に利用しているオフィストイレの総合満足度を100点満点で、表2に示す個別要因の各満足度を±5点でそれぞれ評価してもらい、ポートフォリオ分析を用いて総合満足度に影響を与える個別要因および改善すべき重点項目を明らかにする。

表 2. オフィストイレの総合満足度に関連する個別要因

No.	個別要因
①	清潔さ
②	ニオイ・香り
③	内装のデザイン(照明も含む)

④	混雑具合
⑤	バリアフリー(段差がない、手すりが付いているなど)
⑥	防犯性
⑦	付属設備(温水洗浄便座、パウダーコーナー、荷物置場など)の充実
⑧	サニタリー設備(生理用品や尿取りパット用ゴミ箱)の有無
⑨	音のプライバシー確保
⑩	視線のプライバシー確保
⑪	落ち着いて利用できる
⑫	トイレの選択肢の多さ(多機能、男女別、男女共用など)

3. 調査・分析結果

3-1 オフィストイレに対する総合満足度の比較

ジェンダーごとの総合満足度を表3に示す。

現在主に利用しているオフィストイレに対するトランス全体の総合満足度は、シス全体よりも9.2点低い結果であった。

トランスのFTM・FTX・MTX・MTF(以下トランス4区分)のうち、最も点数が高かったのはFTMで、最も点数が低かったMTXとの差は8.2点であった。

また、トランスの中でも性自認が男女どちらかに寄っているFTM・MTFよりも、性自認が男女二元論にあてはまらず、中間的あるいは流動的な場合もあるFTX・MTXは、相対的に満足度が低かった。

表 3. オフィストイレの総合満足度(点)

シスジェンダー	全体	70.4	男性	70.0	女性	70.8
トランスジェンダー	全体	61.2	FTM	64.6	MTF	64.3
			FTX	57.1	MTX	56.4

3-2 総合満足度への影響要因の比較

ポートフォリオ分析を用いた総合満足度への影響要因分布について、シス全体・トランス全体の結果を図1に、シス男・シス女の結果を図2に示す。トランス4区分では、MTXに強い影響のある要因が見られなかったため、FTM・FTX・MTFの3区分の結果を図3に示す。

シス全体の重点維持領域(総合満足度への影響度が強く、かつ満足度も高い)に属し、かつ現状の総合満足度を牽引している要因は①清潔さであり、他の要因に比べ強い影響がみられた。一方トランス全体では、重点維持領域に属する要因は出現しなかった。

シス全体・トランス全体の共通要因は①清潔さ、①落ち

着いて利用できる、⑫トイレの選択肢の多さであり、これらはシスの男女それぞれにも出現した。中でも⑫トイレの選択肢の多さは、トランス全体では重点改善領域（総合満足度への影響度が強いにも関わらず、個別満足度が低い）に属しており、総合満足度を下げている主な要因といえる。

また、シス全体の特有要因は③内装のデザイン、④混雑具合、⑤バリアフリー、トランス全体の特有要因は⑨音のプライバシー確保であった。

さらにジェンダーごとの傾向を見る。シス男の特有要因は④混雑具合、⑤バリアフリー、シス女では③内装のデザイン、⑥防犯性と、シスの男女間で視点の違いがみられた。トランス3区分の特有要因は、FTMでは⑩視線のプライバシー確保、FTXでは③内装のデザイン、⑧サニタリー設備の有無、MTFでは⑥防犯性と、それぞれの視点に違いが見られたが、MTFの⑥防犯性はシス女との共通要因であり、「女性」にとって重要なポイントと思われる。

⑫トイレの選択肢の多さは、シス男、シス女、トランス3区分すべてに出現した共通要因であるが、トランス3区分ではいずれも重点改善領域に属している。また、⑪落ち着いて利用できるは、シス男、シス女、FTXおよびMTFに共通の要因であった。

4. まとめと今後の計画

調査・分析の結果、以下のことが明らかとなった。

- 1) 現在主に利用しているオフィストイレについて、トランス全体の総合満足度はシス全体に比べて低い。トランス全体には総合満足度を牽引する要因がなかったことも、点数の低さにつながっていると考えられる。
- 2) トランスでは、総合満足度への影響要因に各ジェンダー特有のものが出現し、ジェンダーによる視点の違いが見られた。よって、「トランスジェンダー」と一括りにすることはできない。

3) オフィストイレの総合満足度への影響要因として、シス全体では「デザイン」「混雑具合」「安全性」が出現したが、トランス全体ではそれらの要因よりも「音のプライバシー確保」が“より影響度の高い要因”として出現しており、オフィストイレの満足度に対する両者の視点に違いがみられた。

4) シス全体・トランス全体の総合満足度に影響する共通要因は、「清潔さ」「落ち着いて利用できる」「トイレの選択肢の多さ」であり、これらの満足度を上げることが、両者の総合満足度を上げることに繋がると考えられる。中でも「トイレの選択肢の多さ」は、トランス全体では「重点改善領域」に属しており、最優先課題である。つまり、男女別、多機能、男女共用など利用できるトイレの種類が複数あり、かつ選択できるようにすることが、オフィストイレに対するトランス全体の総合満足度を底上げし、同時にシス全体の満足度向上にも繋がると考えられる。

今後、オフィス規模との相関や、トランスのカミングアウト状況などによる違い、具体的なストレス・不満点、各トイレ（男女別、多機能、男女共用）の利用状況および配置計画などについて分析を進める。

なお本報告は、「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」（金沢大学、コマニー（株）、（株）LIXIL）で行った調査をとりまとめたものである。

注

- 注1) 性自認、シスジェンダー、およびトランスジェンダーについては本研究その1を参照のこと。
- 注2) 出生時に割り当てられた性別（Female, Male）および性自認（Female, Male, X-gender）の組合せから、トランスジェンダーの4区分を構成する。それぞれFTMはFemale to Male、FTXはFemale to X-gender、MTXはMale to X-gender、MTFはMale to Femaleの略である。

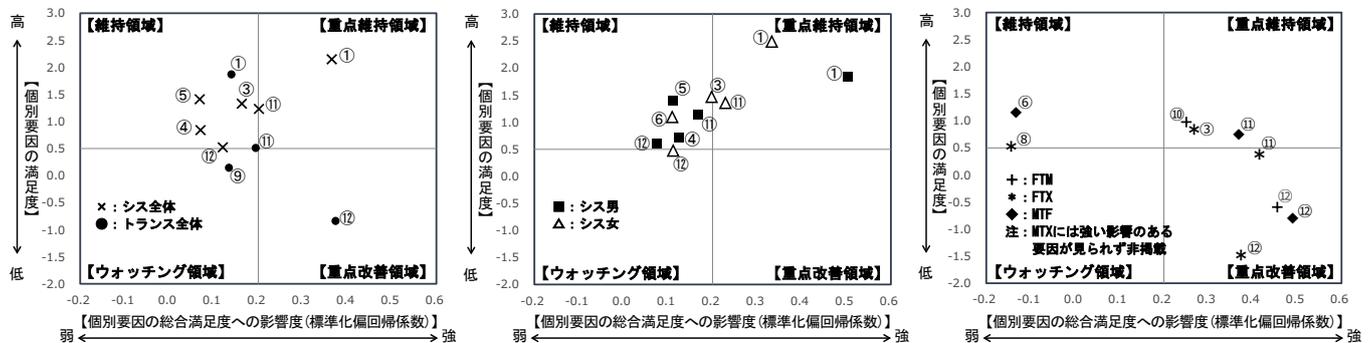


図1. 総合満足度への影響要因分布（シス全体・トランス全体）

図2. 総合満足度への影響要因分布（シス男・シス女）

図3. 総合満足度への影響要因分布（トランス3区分※）

*株式会社 LIXIL

**コマニー株式会社

***金沢大学 人文学類 准教授 文修

*LIXIL Corporation

**COMANY INC.

*** Assoc.Prof, School of Humanities, Kanazawa University, M.A